

科目名	食糧資源論	科目分類	■ 専門科目群 □ 総合科目群		
			経済学科	□ 必修 ■ 選択	
			学科	□ 必修 □ 選択	
英文表記	Food Economics	開講年次	■ 1 年 □ 2 年 □ 3 年 □ 4 年		
		開講期間	■ 前期 □ 後期 □ 通年 □ 集中		
ふりがな	たむら ひであき	実務家教員担当科目		修得単位	2 単位
担当者名	田村 英朗	実施方法	■ 対面のみ □ 遠隔のみ □ 対面・遠隔併用		
授業のテーマ	食料という一つの財を通して、経済理論、特にミクロ経済学の理論を応用してみます。食料は身近な素材なので、経済理論の適用としてわかりやすいものです。				
到達目標	ミクロ経済学の食糧問題への応用事例を通して、日本および世界の農業・食料問題を自発的に考え、応用できる能力を身に着ける。				
授業概要	農業・食料に関わる疑問・関心は多岐にわたり、その理解のためには食料・農業・農村の「実態に関する知識」と考えを進めるための「経済学的な理論」とが必要です。こうした「知識と理論を組み合わせた体系」である農業経済学をベースに食糧資源問題を基礎から学んでいきます。 なお、授業における PC 活用方法について適宜、指示する場合がありますので留意して下さい。				
授業計画					
第 1 回	経済学と農業的世界				
第 2 回	経済発展と農業				
第 3 回	食料の需要と供給				
第 4 回	農業生産と土地				
第 5 回	農業の経営組織				
第 6 回	農産物の市場組織				
第 7 回	農産物貿易と農業保護政策				
第 8 回	世界の人口と食料				
第 9 回	食生活の成熟とフード・システム				
第 10 回	農業の近代化				
第 11 回	資源・環境と農業				
第 12 回	日本の農業と食料(1) 日本の農業・食料問題、農業基本法と農業の構造改善、食料管理制度と米の生産過剰				
第 13 回	日本の農業と食料(2) 食料の内外価格差と食料自給率の低下、食料・農業・農村基本法の成立、21 世紀の日本農業と農業政策				
第 14 回	農業政策と農業経済学				
第 15 回	復習				
第 16 回	定期試験				
授業時間外の学習	1. 授業で配るプリントや課題に十分に取り組んでください。（1 時間程度） 2. 日頃から日本経済新聞やその他の経済誌に目を通すようにしてください。（0.5 時間程度）				
履修条件 受講のルール	テキストに沿って講義を進めるので、必ず購入してください。なお、適宜資料を配布しますが、事前に連絡が無く欠席した学生には原則配布しませんので、友人同士でコピーして下さい。				
テキスト	荏開津 典生、鈴木 宣弘『農業経済学(第 5 版)』岩波書店、2020 年。				
参考文献・資料	農業白書				
成績評価の方法	小テスト・レポート 40%、定期試験 60%をおよその目安として、総合的に評価します。 ・出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。 ・出席確認時に不在だった場合は原則としてその回は欠席とします。				

	・授業中に無許可で退出した場合は欠席とします。 ・授業の理解、および予習復習が充分であることを確認するため、授業中に小テストを行います。 ・レポート課題は授業内又は掲示板（ポータルサイト含む）で指示します。
オフィスアワー	火曜日～木曜日の第4時限の時間帯 ※これ以外の時間帯は必ず事前に予約してください。
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	食料と言っても、別に他に財、例えばパソコンや靴下、ガソリン、家具等とそれほど違うわけではない、一つの財です。違いをことさらに強調しすぎると、かえって本質が見えなくなります。ミクロ経済学の一応用分野として学ぶと経済学の理解が深まります。